



# 飯田高校便り (校長版)

令和4年7月6日

## 生徒自治会、ウクライナの方々と語る

新聞やニュースなどでも報道されましたが、7月1日(金)、本校会議室において、高森町の協力を得て生徒自治会が主催する「ウクライナの方々と語る会」が開催されました。本校の生徒約50名余りが参加し、佐藤峻自治会長の「自分たちに何ができるかを考え、このような会を企画した」との挨拶の後、避難してきている4家族9名の方々との間で以下のような質疑応答がありました。(⇒ウクライナの方々の返答)



- 日本も含めて世界にしてもらいたいことは何か  
⇒もう少し迅速な軍事支援とロシアに対する効果的な制裁の実施
- ウクライナに戻ることができたら最初に何をしたいか  
⇒家族旅行、そして親戚や友人に会い一緒に食事をして日本のことを話したい。
- 高森町での生活の様子はどうか  
⇒とても親切にしてもらっている。夜のカエルの鳴き声は感動的。しかし、子供が思い切り遊べる場所がほしい。
- 日本の高校生に対して望むことは  
⇒ウクライナの子もたちと交流する機会がもっとあれば良い。平和な生活を送られるよう行動に移してほしい。



生徒たちからの様々な質問に対して、ウクライナの方々も丁寧かつ誠実に答えていただき、生徒たちは平和の大切さを改めて考えるとともに、ウクライナの方々の切実な思いを聞くことができ、今後何らかの行動につなげていってくれることでしょう。

「語る会」終了後、中庭での歓迎レセプション、邦楽班の琴の演奏や空手班の演武、そのお返しとしてウクライナの方々の歌の披露があり、和やかなひと時を共有しました。一日も早く事態が終息し祖国に戻り、再び“ひまわり”のような笑顔あふれる生活ができることを切に願います。

